

<はじめに>

特定医療法人丸山会では、平成 26 年度を計画初年度とする 3 カ年の中期事業計画を策定し、HP にも掲載しております。

最終年度(28年度)が経過したことに伴い、1 年間の振り返りを行い活動報告として併せて掲載いたしました。文中には中期事業計画で掲げた項目をローマ数字、アラビア数字で示し、実際に行った活動内容を⇒の後に記載してありますので、ご高覧いただければ幸甚です。

なお、初年度(26年度)および中間年度(27年度)の活動報告につきましては既にHPに掲載済みです。併せてご高覧ください。

## 中期事業計画に基づく28年度活動報告

### I 患者さん・利用者さんの権利の尊重と患者さん・利用者さん中心の医療・介護の推進

1. 患者さん・利用者さんの権利および丸山会の理念・方針等のHP、広報誌、病院案内等への継続的な掲載、法人内広報関連手法・ツール等のレベルアップ
  - ⇒29年1月にHPを刷新しました。今後さらに内容の充実を図っていきます。
  - ⇒上田市内の小学生向社会科冊子に病院の役割について掲載する等、社会的な役割も意識しながら広報施策を進めました。
  - ⇒ナローキャスティングの検討等、広報活動の精度向上も併せて図ってきました。
2. 職員に対する患者さん・利用者さんの権利および丸山会の理念・方針、倫理規定の周知徹底
  - ⇒新入職員研修、職員研修・集会等で反復し周知徹底しております。
  - ⇒「丸山会ポータルサイト(法人内グループウェア)」トップに掲載しております。
  - ⇒「職員ハンドブック」に掲載し、全職員に周知しております。
  - ⇒病院内職員向け「デジタルサイネージ」にて放映しております。
3. インフォームド・コンセントの徹底と適切な個人情報、プライバシーの保護
  - ⇒インフォームド・コンセントに関わる病院内ルールを整備し、業務を進めてきました。ケアプロセスに関わる内部監査において実施内容等の検証を行っております。
  - ⇒過年度全面的に見直した個人情報保護管理体制に基づき、職員研修等も交えながら、管理レベルの維持・向上を図っています。
  - ⇒「職員ハンドブック」に骨子を掲載し、新入職員主体に研修を実施しました。
  - ⇒職員に関するマイナンバー制度を予定どおりスタートさせました。
4. 患者さん・利用者さんのご意見聴取および医療・介護サービスの質向上への反映
  - ⇒統括部署を「患者サービス向上委員会」に一元化し取り組んでいます。
  - ⇒意見箱投入意見の公表方法をルール化し、公表を継続しています。
  - ⇒患者さん・利用者さん満足度調査を昨年度に続き実施し、比較分析を行うとともにご意見に基づく改善策等を検討・実施しています。

## Ⅱ 安全・安心で質の高い地域医療・介護の提供

### 1. 安全・安心で質の高い地域医療・介護の提供を目指していく上で、ありたい将来像を明確に持ち、現状とのギャップ、計数的な視点も踏まえた部署別目標および改善具体策の策定と実践

⇒昨年度に続きQM(内部監査)委員会中心に内部監査を実施し、監査プロセスを通じ各面から改善活動を実践しました。(注) QM(Quality Management)

⇒具体的には、同委員会メンバー主体に、上期8、下期2の内部監査チームを編成し、病院機能評価受審時に課題と認識した事象等を主体に、その改善状況等を監査しながら病院の質の向上を図りました。

⇒法人の理念・基本方針を事業計画(中期及び年度)で展開し、事業計画等に基づき各部署目標を策定することにより、目標の連鎖を図っています。

⇒併せて、28年度末をマイルストーンとして、部署毎に目標に基づき具体的な施策、実施スケジュールを策定し、四半期毎に進捗管理を行うことにより、P-D-C-Aが機能するよう取り組んできました。

### 2. 医療・介護安全管理体制の一層のレベルアップおよび定着

⇒専任医療安全管理者を配置してインシデント事案等への対応、一元管理を行うとともに、法定を含めた研修会等は完全実施、併せて強化月間、標語募集等により、安全管理に対する職員の意識高揚を図りました。

⇒病院専任医療安全管理者の活動を拡充し、法人全施設の安全管理対策の支援を行ってきました。具体的には全老健施設のインシデント事案を共有し、再発防止策等を法人単位で講じ周知徹底を図っています。

### 3. 病院内・施設内感染管理体制の一層のレベルアップおよび定着

⇒感染管理認定看護師、感染対策委員会が中心となり、関連事案等への対応、一元管理を行うとともに、法定を含めた研修会等は完全実施、併せて県外老健施設も含め法人全施設にラウンド指導等を実施しました。

⇒感染管理に関わる体制(報告、対応策の検討・実施、評価)が整備され、一時期インフルエンザの蔓延等がありましたが、迅速な対応により、罹患を最小限に止めることができたものと評価しています。

### 4. 医療機器等の適切な保全

⇒臨床工学科、総務課主体に主要な医療機器の現況、メンテナンス手法、更新スケジュール等について一元管理の上、計画的に進めています。

### 5. 外来診療業務のパフォーマンス向上

⇒専門外来として、乳腺外科外来(2 枠/月)、血液専門外来(1 枠/週)、循環器内科外

来を増枠しました。

⇒外来患者さんの円滑な診察フローの障害となっていた外来受付ブースを廃止し、不足気味である外来診察室に充当しました。併せて外来コンシェルジュの配置、診察室・検査室・放射線撮影室番号の見直し等により、患者さん診察フローの改善を図りました。

⇒丸子中央病院の延べ外来患者数は 110,683 人(対前年度+3,904 人、3.7%増)と過去最高になりました。

## 6. 病院入院診療業務の機能強化

⇒28年4月より従来の一般病棟3棟150床(一般病棟7:1入院基本料)の内1棟50床を地域包括ケア病棟(回復期病棟)に再編成しました。これにより、急性期(一般病棟2棟100床)・回復期(上記1棟50床)・慢性期(医療療養1棟50床、介護療養型医療施設2棟97床)の編成になり、上小医療圏で最大のケアミックス病院となりました。

⇒再編した3病棟の延べ入院患者数は52,019人(対前年度4,791人、10.1%増)、病床利用率は95.0%(一般病棟95.7%、地域包括ケア病棟93.6%、対前年度9.0%増)となり、外来同様過去最高になりました。また慢性期病棟・施設とも対前年増加推移となりました。

⇒上記のとおり病棟の再編により病床利用率が大幅に向上し、殊に回復期における患者さんの療養環境が改善された反面、12月から2月にかけて恒常的な満床状態になり、救急搬送の受入ができないケースが相当数発生しており、今後の検討課題となっています。

## 7. 看護・介護(含介護系リハビリテーション)部門の機能強化

⇒クリニカルラダー、介護士育成プログラム等に沿い、知識、スキル、接遇力等について、若年職員主体に計画的な育成を進めています。

⇒介護予防・日常生活支援総合事業(上田市委託)の運営等にも携わり、職員のノウハウが向上しました。

⇒在宅介護サービス強化の一環として、介護リハビリテーション科中心に、病院、御所苑、ケアまるこ一体となった訪問リハビリテーション業務の拡充を図ってきました。件数は9,605件(対前年度55.0%増)と2年連続大幅増加しました。

ケア東久留米においても28年2月より同業務を開始し、件数は順調に増加しております。

## 8. 診療技術部門の適切な機能発揮

⇒後発医薬品への積極的なシフトを進め、4月の薬価改定(マイナス改定)もあり、期中の医薬品購入費を大幅に低減(対前年度▲63百万円)させることができました。適切な水準の薬価差益は確保できており、診療関連業務全般が増収基調にある中での原価低減は、病院の収支改善に大きく寄与しました。

- ⇒医療リハビリテーション科は、4月にスタートした地域包括ケア病棟入院患者への施術を基準どおり行い、当病院初の回復期病棟の安定的な運営を図ってきました。院内外を含め、地域のリハビリテーションに対する希求は強く、29年4月には6名の技師を採用し、体制を強化していきます。
- ⇒臨床検査科では外部委託業務の見直しを行い、コストパフォーマンスの改善を図りました。また、検査室内に採血待合を設け、検査業務のフロー改善を図りました。
- ⇒臨床放射線科では4月に新入職員3名を採用し、計画的な育成を図りながら体制を強化しました。
- ⇒栄養科では患者さんの栄養管理に配慮しながら、患者さんに満足していただける食事を提供したいとの思いから、当病院レストラン山田シェフ監修のもと毎月『スペシャルディナー』を提供しています。
- ⇒臨床工学科では適切な医療機器の管理が定着し、計画的に更新、点検、メンテナンス等を実施しています。

#### 9. 人間ドック、集団検診等の受入体制の強化

- ⇒当病院の人間ドックに対する利用者評価(設備、接遇、食事等)は各面とも極めて高く、通常枠は半年以上先まで埋まっています。一人でも多くの方にご利用いただくため、可能な限り別枠の増加を図ってきました。その結果、人間ドックは4,316件(対前年度16.3%増)となりました。
- ⇒業務のシステム化と各職員のジョブサイズの拡大(互換性向上)、併せて各健保・企業等との契約内容の簡素化を進めました。時間外労働時間は対前期比24.5%の削減となりました。

#### 10. DPC 対象病院への移行準備

- ⇒28年度準備病院として、30年度移行に向けDPC分析ツールを導入し、ベンチマーク、当病院の特性、他病院との比較等について分析を始めました。

#### 11. 地域包括ケアへの取組強化

- ⇒丸子中央病院を地域における全ての医療・介護サービスの起点たる病院となることを目指し、医療・介護相談のワンストップサービスの提供体制を検討しています。具体的には医療・介護総合相談センター(仮称)、在宅サービス総合支援センター(仮称)の早期開所を図っていきます。

### Ⅲ 医療・介護従事者の育成とチーム医療・介護の推進

#### 1. 各センター機能の強化

##### (1) 研修センター

⇒地域に心肺蘇生手法の講習を拡充し、心肺停止時の地域の救命率を向上させること等を主目的に一層活動の範囲を拡げ、次のとおり講習会を実施しました。

殊に誰にでもできる簡易で有用な蘇生術『PUSH』コースに注力し、地元丸子中学全生徒・保護者が受講する等、対前年度比回数で11回、受講者数で567名と大幅増加しました。

コース	実施回数	受講者数	主な受講者
AHA・ACLS	2回	12名	医師、コメディカル(含看護師)等
リプレコース	2回	19名	〃
AHA・BLS	11回	85名	本法人職員(含事務)、地域の医療従事者
PUSH	15回	659名	警察職員、学校の生徒・保護者、近隣住民

⇒丸山会では、上表PUSHコースを27年9月より正式に導入、甲信越地区初の地域コア施設(指導者育成施設として認められた施設)を目指し、一層の拡充と地方展開の範たるモデルを築くことで、地域のしあわせ創りに貢献していきます。

⇒シミュレーション教育にも年々精度をあげ取り組みました。

昨年に続き、10月にこの領域の第一人者である講師陣を招聘し、テーマを『シナリオの作り方とその使い方』として病院主催で第2回目のシンポジウムを開催し、県内各地から大勢の医療関係者が病院に集いました。

##### (2) 消化器病センター

⇒昨年度強化した体制(専門医の増員、内視鏡ビデオシステムの増設)をフル活用し、人間ドック、外来患者増等に伴い28年度の主な内視鏡検査・診療件数は9,522件(対前年度15.8%増)と好調に増加しました。

##### (3) 糖尿病センター

⇒やまぶき会(糖尿病患者さんの会)と協調しながら啓蒙活動等を行いました。

⇒世界糖尿病デーのブルーライトアップ点灯式に併せ、玄関ロビーにて糖尿病に学習会を開催しました。

##### (4) 透析センター(含上田透析クリニック)

⇒地域医療器機関との連携強化等が奏功し、透析実施件数は、31,946件(対前年4.8%増)と好調に推移しました。

⇒病院透析センターと上田透析クリニックでは毎月1回交流会を開催し、診療における連携、情報交換等を図っています。

⇒老朽化した透析機器の更新を計画どおり実施しました。

#### 2. 委員会活動等の一層の活性化、規程・マニュアル等の周知徹底および活用定着

⇒必要な委員会、開催内容(役割、責務)、構成メンバー等を再検証し、委員会活

動の精度向上を図りました。28年度は1委員会を新設、1委員会を改組し、37委員会での運営となっています。

⇒規程・マニュアル等についてブラッシュアップを行い、現状業務に即した内容に改訂しました。

### 3. 資格取得支援制度の新設、職員研修の拡充、必要な外部研修等への積極的な派遣および研修履歴の整備

⇒法人が事業運営上、資格取得者の在籍が必要と認めた専門資格の取得について、人材公募により対象者を選定の上次のとおり支援を行う制度を新設しました。

<病院に必要な認定資格者>

資格名	支援額	離職時の勤怠	旅費	必要な人数	取得後の勤務継続
感染管理認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	2名	5年以上
皮膚・排泄ケア認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	2名	5年以上
認知症看護認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	2名	5年以上
透析看護認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	2名	5年以上
訪問看護認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	1名	5年以上
診療情報管理士	全額	勤務(出張扱)	支給	10名以上	5年以上

<上記制度新設に伴う28年度の人材公募>

資格名	人数	備考
感染管理認定看護師	1名	・看護師免許取得後5年以上の実務研修と3年以上の認定分野における実務研修の実績が必用。
認知症看護認定看護師	1名	
訪問看護認定看護師	1名	
診療情報管理士	5名	・取得後は関連分野での勤務とする。

⇒公募に感染管理認定看護師1名、認知症看護認定看護師1名、診療情報管理士3名の応募があり、感染管理認定看護師はすでに資格取得、その他は資格取得のプロセスの中にあります。また、その他法人負担でDAの資格を12名が取得しました。

⇒現行の資格保有者は、感染管理認定看護師2名、認知症看護認定看護師1名、診療情報管理士3名となっています。

## IV 健全な病院経営(安定した経営基盤の構築)

### <組織・体制面、人事面>

1. 現状の課題・問題点を踏まえ、今後のあるべき姿実現に向けた患者・利用者受入体制、組織体制の見直し

(改定する組織・体制)

#### (1) 病院診療部門

⇒前記Ⅱ 5. 6. 記載のとおりです。

#### (2) 病院事務部門

⇒課員のジョブサイズを上げ、互換性を高めることを目的として、施設管理課、用度課及び庶務課の一部業務を統合し、総務課としました。

⇒経理課を、経理、財務管理、契約管理業務を担う経営管理課に改組しました。

⇒旧庶務課の一部業務(広報、渉外、文書管理)と経営企画業務を担う経営企画課を新設しました。

⇒情報システム課を、システム企画、システムサポート業務を担う情報企画課に改組しました。

⇒上記経営管理課、経営企画課、情報企画課は事務部経営推進部門の傘下とし、企画、管理、システム一体となったバランスの良い運営を図っており、当部門長は事務部長が兼務しています。

#### (3) 老健5施設

##### ア. 組織の整備(組織規程の制定)

⇒介護看護部門を統括する職員の職名を総師長に統一しました。

⇒各フロア単位(含通所リハビリテーション)の管理運営を担うプレーイングマネージャーの役職名をフロア長とし、補佐・代理者を副フロア長としました。

⇒リハビリテーション科の管理運営を担うプレーイングマネージャーの役職名を技師長としました。

⇒上記各老健施設業務上の管理ラインとは別に、各職員個々の知識、スキル、育成力に着目し、一定水準以上のレベルにある者をサブチーフと呼称し、サブチーフの取り纏めを担う職員をチーフとしました。

##### イ. 新設した職位と手当

⇒新設した職位について次のとおり手当を支給しております。

職位	フロア長	副フロア長	技師長	チーフ	サブチーフ
手当	25,000	15,000	20,000	10,000	5,000

2. 中期事業計画、年度事業計画に基づく各部署のP—D—C—Aの実践

⇒中期事業計画の最終年度(=結果を出す年度)として、各部署において次の観点からしっかりとした部署別目標・計画を策定するよう注力しました。

・ありたい姿、現状認識をベースに、過年度を振り返り、環境変化及び今後の

展望を考慮した上で①継続して取り組んでいくこと②目標や達成手法の変更が必要なこと③新たに目標に取り入れること④やめることを明確にした上で具体的に策定する。

- ・ 定量的な目標は極力数値化する。
- ・ 定性的な目標は28年度末(或いは期中の一定時点)に何がどのような状況になっているかを明記して目標とする。

⇒部署別目標の実現に向けて、28年度末を期限(若しくはマイルストーン)とした具体的施策を立案しました。

⇒具体的施策を『業務計画とスケジュール』に展開し、実施状況を四半期で進捗管理しました。

### 3. 必要な医師、看護師(含認定看護師)、技師、事務員等の確保

⇒開業に伴う外科医師1名の退職時に、経験・知識・スキルに優れた外科医師2名を採用し、外科の診療体制を拡充しました。

⇒29年4月より、高度な循環器内科診療が可能な同科医師の採用が内定しております。

⇒4月に臨床放射線技師を3名採用、看護師を随時採用する等、施設基準を充足しかつ病棟定員等をフルで運用できる医師、看護師、コメディカル等の人員は常時確保しています。

### 4. 各職員の能力・資質向上および組織の活性化

⇒クリニカルラダー等を活用しながら、若年職員の育成を図ってきました。

⇒職員のキャリア形成を見据えた計画的な人事異動を、県内外の交流も含め実施しました。

⇒医事課、健康管理部主体に部署内における計画的なジョブローテーションによる互換性向上を進めました。

### 5. 給与制度の見直し検討

⇒『職能資格制度』『職務等級制度』の要素を取り入れた新たな人事制度を検討中です。その上で、人事評価結果に基づく真に公平な給与制度を30年度導入を目的に検討していきます。

### 6. 福利厚生の拡充

⇒老朽化している院内保育所を病院敷地内への移転新築を検討しました。29年度内閣府補助対象事業として実施する予定です。

## <資産、機器、物品管理>

### 1. 資産、機器、物品管理の徹底

⇒総合資産管理システムを導入し、全ての固定資産、リース資産、備品の管理を一

元化しながら遊休備品の活用と新規購入の抑制、品質面(劣化状況、使用期限等)の検証および定期的な品質管理(更新、保守・メンテナンス)等を行っています。

## 2. 物品購入、業務委託等の再検証

⇒品質、価格、企画・提案力等の観点から、定期的(年1回以上)に委託業務の評価を行い、契約更改の是非・内容を検証しながら、他社も含めた価格交渉等を行っています。

⇒診療材料等購入検討委員会を設置し、SPD業務の再検証他、診療材料購入に関わる業務の抜本的な見直しを行いました。

## <財務、金融面>

### 1. 適正利益の確保および安定した財務基盤の構築

⇒前述したとおり増収に関わる諸施策を期初から実践するとともに、医薬品費を大幅に削減したことにより、病院収支が大幅に改善しました。

⇒予算管理を徹底し、実績の月次チェック及び短いサイクルでのP—D—C—Aを励行しました。

### 2. 取引金融機関との関係強化

⇒業績推移、事業計画の進捗状況等を適時開示し、年度資金繰計画等を策定・提出しました。

⇒賞与支払資金の他に、取引4行から500百万円の安定資金を調達しました。

## <情報管理、活用、システム整備、法人情報の発信>

### 1. 必要な部署のシステム化、法人全部門のOA化促進による事務の合理化

⇒人事システム導入にむけ、必要な要件をまとめ試験運用を開始しました

⇒DPCデータ分析ツールを導入し、DPC移行準備に必要な分析を開始しました。

⇒地域包括ケア病棟のリハビリ実施管理のためのアプリケーションを開発し、効率的な実施管理ができるようにしました。

⇒ストレスチェック義務化対応のため、ストレスチェックシステムを導入し効率的な実施、データ管理ができるようになりました。

⇒診断書作成支援システムを導入し、診断書作成業務を効率化しました。

⇒電子カルテと業務ポータル機能を連携させ、病棟稼働状況などの速報データを発信し、病棟管理などの効率化を図りました。

⇒健診システムに問診票OCR機能を追加し、データ入力業務を効率化しました。

### 2. 介護事業の情報化および事業所間の連携、地域内他事業所との情報連携の強化

⇒介護システムと八十二銀行インターネットバンキングシステムを連携させ、全介護事業所のサービス利用料支払で口座振替サービスを開始しました。

3. 地域、患者さん・利用者さんへ向けた法人の情報等を、手法のレベルアップを図りながら一層積極的に発信していく。  
⇒病院のホームページの内容を整理し、見やすいものに刷新しました。

## V 地域おこしへの貢献

### 1. 市民公開講座、出前講座、心肺蘇生の研修会等の開催

⇒外来診療関連の市民公開講座を1回、心肺蘇生関連の講習会(4種)を30回、出前講座を5回開催しました。

### 2. 地域行事等へ積極的に参画する。

⇒病院をメイン会場とした第3回「まるこベルシティまつり」を開催しました。

種々な出し物、打上花火等が好評で、第2回を約千人上回る約6千人の来場者があり、大盛況となりました。

\*「まるこベルシティまつり」

「丸子中央病院祭」と伝統のある「光明観音堂りんごまつり」のコラボレーションを主体に、旧カネボウ跡地利用者と地元自治体等が一体となった夏祭り

### 3. 病院施設を地域へ開放し、地域の憩いの場としての活用を図る。

⇒各種音楽イベント(ロビーコンサート)を5回開催しました。何れも玄関ロビーは立錐の余地がない程大盛況になりました。

⇒かつて上田市で時計店を営んでいた吉田賢一さんから、素晴らしい多種多様な時計の寄贈を受けました。吉田さんに丹精込めて整備していただき、大正初期に製造された大きな掛時計(2台)は、一世紀を超えて今は病院の玄関ロビーで優雅に時を刻んでいます。その他芸術作品ともいえる腕時計、懐中時計等は、同様に整備が進められ、29年4月にはロビーに展示できる予定です。

⇒午前の外来診察終了後、玄関ロビーにてボランティアの方によるピアノ演奏を随時行っています。

⇒冬期間、玄関前の中庭にてイルミネーションを点灯しています。車を止め写真を撮っている方も目立ちます。

⇒老朽化した職員向保育所を病院敷地内に移転新築し、企業主導型保育所(内閣府補助事業)として29年度開所できるよう準備を進めています。法人職員の他、地域の皆様にもご利用いただけるよう定員の枠を設ける予定です。

⇒上記の他、30年度には上小地区千曲川左岸エリア初の病児保育所を開所するよう検討を進めています。2保育所の運営を通じ、地域の就労世帯を支援します。

おわりに

平成28年度をもちまして、平成26年度を計画初年度とする3カ年の第一次中期事業計画年度が満了しました。丸山会にとっては、中核施設である丸子中央病院の新築移転直後ということもあり、まさに激動の3カ年でありました。

思い起こせば計画年度直前の26年2月、有史以来記録のない86cmという大雪に見舞われました。社会インフラが殆どマヒする中、自宅から10キロ以上歩いて来た職員、泊まり込みで勤務した職員、徹夜で除雪作業に当たった職員等体を張って法人を守ってくれた職員、退職後もボランティアで患者さんの受入を手伝いながら病院の温もりを伝えていただいている先輩方、こうした人達と力を合わせていけば、数々の難局にも立ち向かえると感じたことが思い出されます。

3カ年を簡潔に振り返ってみますと①医療・介護の質を上げること②しっかりとした組織、経営基盤を構築すること③地域に根差し、病院を誰もが気軽に足を向けてくれる地域の憩いの場とすること等に注力してきました。具体的には病院機能評価の受審、病棟の再編・再々編、外来診療科の拡充、各種イベントの開催等を行ってきました。最終年度であった本年度は、結果を出さなくてはならない年度として、かなりプレッシャーもありましたが、全職員がそれぞれの持ち場で力を発揮して、明らかに今までとは違う手応えを感じることができた年度となりました。また、3カ年の様々な取り組みを通じ、丸山会の経営理念『質の高い医療・介護の提供を通じて、地域のしあわせ創りに貢献します。』を確信できた中期事業年度であったと感じています。

私たちが描いているありたい姿への道筋には、まだ緒に就いたばかりですが、地域の皆様に温もりを感じていただきながら、地域に根差した質の高い医療・介護サービスの提供を目指してまいりますので、関係各位におかれましては、今まで以上にご支援、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月  
医療法人 丸山会  
理事長 丸山 和敏